

今後の検討方針について

【カムイワッカ湯の滝の利用のあり方について】

斜里町

- ・ 資料 3 - 3 別紙①のとおり、下部区域において、これまで指摘されていなかった落石が認知され予見されるようになった。土地を借り受け、供用する斜里町としては、「観光地」としての「自由利用」は、認めがたい状況となってしまった。行政的な法令判断に基づくと、現状のまま何も対応しないことはあり得ない状況と考えている。
- ・ 一方で、先の報告のとおり、この 2 年間の上部区域で試行事業によって、カムイワッカ湯の滝の潜在的な魅力や満足度の高さも再認識したところでもある。この試行事業の成果も踏まえるならば、下部区域を単純に閉鎖するのではなく、制度的に上部区域と統合し、試行事業の対象区域に組み入れることで、一定の利用は維持できるのではないかと考えている。
- ・ 現在の試行事業の枠組みの基本事項は、下記の通り及び資料 3 - 3 別紙③の通り。
 - ・ 試行 A（ガイド利用）
 - ・ 一定の要件を満たした試行事業引率者による引率。
 - ・ 引率者 1 名あたり 6 名まで引率可能。
 - ・ 全員ヘルメット装着、引率者は無線機携行。
 - ・ 現地補助員 1 名以上配置。
 - ・ 試行 B（個人利用）
 - ・ 1 日 150 名、1 時間あたり 30 名まで。
 - ・ レクチャー受講、重要事項説明書への同意、ヘルメット着用の義務化。
 - ・ 現地補助員 3 名以上配置。
- ・ 下部区域が約 4 万人の自由利用を受け入れていたことを踏まえると、試行事業として円滑に運用したとしても、利用者の大幅な減少は避けられない。しかし、安全性は高まり、かつ、利用者の満足度が大幅に向上する可能性が高い。
- ・ 逆に、滞留時間が延びることによる現地の混乱、繁忙期のアクセスコントロール、オペレーションが複雑になることによる人員の確保、特別な管理運営体制の構築、周知不足となった場合の現地での混乱なども予想されるため、関係機関・団体の協力の下、万全を期することが必須となる。
- ・ 以上を踏まえ、関係機関・団体、出席者各位のご意見を伺いたい。

【マイカー規制/シャトルバス運行のあり方について】

1. 前頁の通り、カムイワッカ湯の滝の利用方法そのものに変更が生じることから、これを踏まえ、2023 年度以降のマイカー規制期間やシャトルバス運行のあり方を見直す必要がある。
2. カムイワッカ地区へのアクセスについては、繁忙期を中心とし、ウトロ地域または知床自然センターから直通のシャトルバス運行を検討する。知床五湖ゲートからの車両規制を想定し、対象は事前の手続きを行った試行事業の参加者と登山者を想定する。運行頻度や使用機材については試行事業の計画と一体的に検討を行う。
3. 繁忙期における知床五湖地区の混雑対策、渋滞対策については別途検討を行う。
4. 9月～10月の3日間限定で試行を行ってきたホロベツ地区からのマイカー規制による新方式でのアクセス事業については、情勢変化を踏まえ 2023 年度の実施を見送る。来年度は過去3年間の実績と効果検証、今後の計画策定についての検討を行う。
5. 2023 年度の具体的な事業計画については、次回（第19回）カムイワッカ部会に提案を行う。